

H・コル／ヴィオラの芸術



[ヒンデミット:ヴィオラ・ソナタ/
ベートーヴェン:2つのオブリガ
ート眼鏡付きの二重奏曲,他
(全5曲)]
ハインリヒ・コル(va)乾まどか
(p)ミラン・カラノヴィチ(vc)他
(詳細は巻末新譜一覧表参照)
[ナクソス◎8.557606]
オープン価格

高橋 昭 ● Akira Takahashi

準 ウイーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を
フィーチャアした企画『フィルハーモニック・ソロイスト』
のひとつで、今回は1980年代以来、ウイーン国立歌劇場
管弦楽団とウイーン・フィルの首席ヴィオラ奏者であるハイ
ンリヒ・コルに焦点を当てている。共演者はもちろんウイー
ンを中心に活躍するアーティストで固められている。

自身すぐれたヴィオラ奏者であったヒンデミットのソナタ
は現在すでに古典の位置にあるが、コルの演奏は作品の性格
を的確に捉えている。まず低域から高域まで音色が美しく、
ヴィオラ独特の響きもしつとりしていて、艶がある。同時に
解釈も音楽から感情のこまかな動きを引き出しているので、
決して無機質な音楽にならない。民謡風の旋律も表情をこま
かく変化させながら美しく演奏しているし、ピアニストの乾
もベーゼンドルファーの特徴を生かして美しいタッチでピア
ノ・パートに魅力を与えている。

シューマンの《おとぎ話》では、すでにこのシリーズに登
場したペーター・シュミードルが共演している。ヴィオラと
クラリネットのそれぞれが美しい音色と豊かな表情を伴って
動くのが、暖かい感触を呼び起こす。第3曲では両者の弱音
と抑えた表情がマッチしていて美しく、すっきりした演奏に
なっている。

ヘンデルの《パッサカリア》でもヴァイオリンとヴィオラ
の音色が似通っているので演奏の一体感が強調されているし、
ダウランドの《ラクリメ》を主題にした自由な幻想曲である
ブリテンの《ラクリメ》はヴィオラの機能を十分に生かして
いるし、コッホも集中力の強い演奏で作曲家の意図に応えて
いる。